

●漁況情報

- 5月下旬から、しらす船びき網漁は、各沿岸地先での漁模様が芳しくないため、多くの船が沖の漁場で操業しています。1日1隻あたり100kg程度の漁獲が得られています。

しらす協議会「湘南しらす」公式サイト <https://shonan-shirasu.org/>

●浜の話題

- 5月2日、小坪漁協所属 まさかり丸さんと牡蠣カゴを用いた短期養殖試験の牡蠣の出荷前の計測をしました。昨年11月22日に牡蠣中間育成シングルシード（1個30g、60円）を導入して、ワカメ筏に垂下してカゴ養殖を始めましたが、平均で80g（2.7倍）まで成長していました。5月3-5日の直売イベントで焼き牡蠣として1個200円で直売したところ、好評の内に完売したそうです。収益率は半年足らずで3.2倍（200/60円）となりました。水温上昇やアイゴ等による食害で伸び悩んでいるワカメ養殖の補填も兼ねた新たな養殖として、今年度は更に育成方法の改善を図り、1個300円で売れる100gサイズまでの育成を目指して行きます。「小坪の新たな牡蠣養殖」カナロコ掲載記事 <https://www.kanaloco.jp/news/social/article-959731.html>



当初の2.7倍の重量まで成長した牡蠣 まさかり丸さんは小坪産の新名物とすることを目指しています

- 5月9日、江の島片瀬漁協は、水産多面的機能発揮対策事業の江ノ島・フィッシャーマンズ・プロジェクト（EFP）による活動で、年度初めのモニタリングを実施しました。藻場のほか海底清掃のポイントを含め全域を調査しました。島の南西から南部にかけてワカメが多く繁茂し、昨年に母藻を収めた網袋「スポアバック」付近では、掌大に成長したカジメ及びアラメの生育が見られました。藻場の回復を期待し、食害対策に力を入れていくそうです。



モニタリングの様子



ワカメ(EFP提供)



アラメ(EFP提供)

- 鎌倉漁協の鎌倉ハマグリ部会と腰越漁協の腰越漁業研究会では、5月上旬以降、鋤簾によるハマグリ調査と稚貝調査を実施しました。今年は両地区共に（公社）日本水産資源保護協会の助成事業を活用して、種苗の放流を行っております。鋤簾調査では5-12kg/人の漁がありました。鎌倉地区では5地点で稚貝調査を実施しましたが、放流種苗より小さい20mm前後の鎌倉生まれの稚貝も確認されました。



鎌倉の鋤簾調査後の計測の様子 稚貝調査で採捕された 20 mm前後の稚貝(計測後再放流しました)
20 mmの稚貝は 4-5 年後には画像右下の立派なハマグリに成長します！

○ 5月14日、小田原あじ・地魚まつりが小田原市公設水産地方卸売市場で開催されました。早朝に水揚げされた小田原の新鮮な地魚を買うことができるイベントや、泳ぐ魚を直接さわることのできるイベントなど、大変盛況でした。



模擬競りの様子



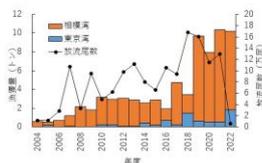
さわる水族館



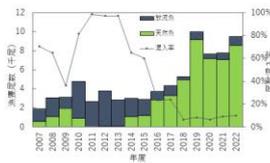
おだわらあんこうカレー販売ブース

○ 5月16日、東京湾小型機船底びき網漁業協議会令和5年度総会が横浜市漁業協同組合会議室で開催されました。コロナ禍を経て4年ぶりの対面での開催となったとの同協議会会長の挨拶に始まり、昨年度事業報告や今年度の事業計画に係る議案が承認されました。総会終了後には、県水産技術センター担当研究員から「トラフグの体長制限について」との題で天然魚の増加で漁獲の増えたトラフグについて、担当主任研究員からは「タチウオの資源管理について」で小型底びき網での漁獲の主体となったタチウオについて、それぞれ話題提供が行われました。

県下トラフグ漁獲状況



トラフグ漁獲量と放流尾数の推移
 ・2019年度以降、漁獲量急増
 ・2022年度、東京湾は過去最大の漁獲
 県下では昨年に続き10トン超え



漁獲尾数と放流魚割合の推移
 ・2018年度以降、天然魚が急増
 (2022年度まで同じ傾向)

天然魚の増加によって、漁獲量が増えている

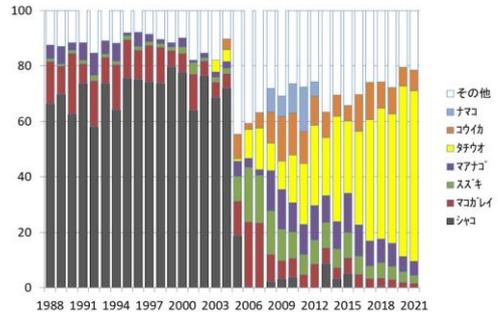


図 横浜市漁協柴支所(小柴)の小型底びき網による魚種別水揚げ金額の構成割合の年変化

話題提供で使われたスライドの一部

○ 5月16日、鎌倉漁業研究会は、サザエ種苗放流(公財)相模湾水産振興事業団 15千個)をしました。当センターが生産した20mm以上の大き目の良い種苗でした。鎌倉でもサザエの漁獲量が減少しているため、漁業者は、期待を込めて地先の適地に放流しました。



大き目の優良な種苗でした 再来年以降の漁に繋がるよう期待を込めて放流しました

- 5月17日、神奈川県漁業士会では「令和5年度要試験研究課題」として、県下の漁業の総合的な課題として、水温上昇に伴う魚種や漁獲量の変動に対する対策や、磯焼け対策、ワカメや海苔等の食害対策等についての課題を、取りまとめを担当する県漁連に提出しました。併せて、10月10日に開催を予定している漁業士研修会と1月に予定される漁業者交流大会での、上記課題に沿ったテーマでの講演の実施についても要望しました。
- 5月17日、三和漁協上宮田支所所属漁業者が4月27日に設置したアオリイカ産卵礁の潜水調査を実施したところ、アオリイカの卵塊が多く確認されました。産卵礁を設置してから、地先の地曳網でも、時折、アオリイカやカミナリイカの入網が確認されるようになりました。水産庁の「磯焼けガイドライン」によれば、アオリイカはアイゴの天敵だそうで、アオリイカの増殖が磯焼け対策にも繋がることを期待したいところです。

水産庁の「磯焼けガイドライン」P.47-48（ページ入力は55-46）「アイゴの天敵」コラムに掲載

https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_thema/houkokusho/attach/pdf/R2houkokusho-11.pdf



アオリイカの卵塊 産み立ての卵塊は乳白色で時間経過と共に右の写真のように色付いてきます

- 5月22日、各浜でハマグリ（ハマグリ）の放流がありました。（公財）相模湾水産振興事業団が、平塚、茅ヶ崎、腰越、鎌倉、小坪の各地先で各々79kgを放流しました。平塚市漁協及び鎌倉ハマグリ部会は独自で購入した種苗（平塚40kg、鎌倉436.2kg）を追加して実施しました。さらに、茅ヶ崎市漁協、腰越漁協、鎌倉漁協は、（公社）日本水産資源保護協会の助成金を活用して、各浜で149kgの放流を行いました。種苗の調達にあたっては、平塚市漁協に仲介・調整頂き、小型の優良な種苗（9g前後）が入手できたため、多くの個数を放流することができました。



種苗放流の様子（平塚市漁協）



種苗放流の様子（茅ヶ崎市漁協）



鎌倉漁協ハマグリ部会の種苗放流の様子

- 5月24日、横須賀市東部漁協走水地区の漁業者がサザエの放流を行いました。県水産技術センターから購入したサザエ種苗 20,000 個を、まず出荷場で網袋に小分けし、海水を掛け流しにした水槽に収容しました。続いて、地先の各漁場で海へ放されました。撒かれたサザエは殻高 20mm 以上と大き目で、豊漁につながることを期待されます。



網袋へ小分けし水槽に入れました

- 5月25日、腰越漁協で、腰越漁業研究会総会が開催され、ハマグリ資源増殖管理等に係る勉強会を併せて開催しました。当日は、池田組合長と同研究会員が出席し、普及員がハマグリの生態や先進の鎌倉漁協ハマグリ部会の放流歩金設定による増殖の取組み事例等について説明し、それを踏まえて同研究会の規約・資源増殖管理規定を策定しました。



当日の様子

- 5月25日、小田原藻場再生活動組織は江之浦漁港内で養成していたカジメ株を港外の母藻礁へ移設する作業を行いました。移設したカジメ株は今年1月に活動組織メンバーで種挿しをしたもので、今後も定期的にメンテナンスを行っていくそうです。



港内で養成したカジメ



母藻礁へ移設する様子

- 三和漁協上宮田支所では、観光地曳網が人気で、多い日には1日4-5回の操業があるそうです。今の時期は、クロダイ、スズキ、コノシロ等が入ることがあり、時折アオリイカ等の入網があるそうです。5月29日に同支所が観光地曳告知ホームページを開設しましたので、興味のある方はぜひご利用下さい。 三和漁協上宮田支所のホームページ <https://miurakaigan.web.fc2.com/>



●観光地曳網
観光地曳網では当漁協所属漁師が仕掛けた網を網引きのように曳いて網獲します。網が入るかはお楽しみ！
皆様もお気軽に漁業体験してみませんか？
●地曳き網 1回 ¥55,000
(大人30名以上は必要！多い分には何名で網引きしてもOK！濡れてもよい運動靴+軍手を持参下さい)
●お問合せ・申込み 三和漁協上宮田支所 岩川まで090-2765-0024(10-17時)
tel 046-888-0024 fax 046-889-0792
●アクセス
三浦海岸駅～徒歩10分、観光バス等での乗合もOK (P有 上宮田漁港)

上宮田漁港直売

三和漁協上宮田支所観光地曳網概要紹介サイト

- 5月30日、江の島片瀬漁協は、サザエの種苗を放流しました(26,800個)。



種苗放流の様子

- 5月31日、(一財)東京湾南部水産振興事業団の主催でカワハギの放流が行われました。横須賀市東部漁協浦賀・久比里地区の漁業者が、幼魚10,000尾を浦賀港の岸壁から海へ放しました。



200尾にアンカータグを付けました



岸壁から海へ！

- 5月31日、神奈川県アナゴ漁業者協議会令和5年度総会が横浜市漁業協同組合会議室で開催されました。齋田信浩会長の挨拶で始まり、理事・監事の選出や昨年度事業報告、今年度の事業計画に係る議案が承認されました。総会に引き続いての研修会では、県水産技術センター担当主任研究員から「神奈川県におけるマアナゴ漁況」のタイトルで講演が行われました。



研修会での講演

- 6月6日に江の島片瀬漁協が、6月7日に藤沢市漁協が、ハマグリ（ハマグリ）の種苗を放流しました（それぞれ、50kg 及び 433kg）。



種苗放流の様子(江の島片瀬漁協)



種苗放流の様子(藤沢市漁協)

- 6月7日から8日にかけて、小田原市漁協刺網部会は視察研修のため宮城県に行きました。同部会員ほか14名が参加し、一般社団法人 Fisherman Japan や宮城県水産技術総合センターを視察しました。新規就業者確保や水産物の利用加工に関する他県の取組を知るとてもよい機会になったようです。



宮城県水産技術総合センター水産加工公開実験棟

- 6月8日、藤沢市漁協の葉山組合長は、漁業の発展に尽力したとして、神奈川県県民功労者表彰を受賞することになりました。

知事室記者発表

<https://www.pref.kanagawa.jp/docs/ie2/prs/r5012788.html>

●お知らせ

①「漁業就業・定着化のための資格取得支援事業」について

県水産課では、県内の新規就業者の定着や独立を支援するため、日々の操業に必要な小型船舶操縦士免許の取得費用を補助（1/3、上限5万円）する「漁業就業・定着化のための資格取得支援事業」を新設しました。神奈川県内の漁業就業者のうち、漁業就業してから3年以内の方が対象（資格取得後、県内で3年以上漁業就業を継続することが条件）なので、該当の方は下記HPで内容をご確認の上、ご利用ください。お問合せ 水産企画グループ 045-210-4542 申込期限 8月31日（必着）

資格取得支援HP <https://www.pref.kanagawa.jp/docs/kb2/syugyou/gyogyoshugyoshikaku.html>

漁業就業・定着化のための資格取得支援事業

小型船舶免許の取得費用を支援します！

対象者

- 県内の漁業に就業して3年以内の方

条件

- 取得後、**県内で漁業を3年以上継続**すること

補助対象経費

- 小型船舶操縦士免許の取得に係る費用（受講料もしくは受験料）
- 補助率は1/3以内、補助上限額は50,000円/件

※就業地域の漁業協同組合を通じて交付申請書類を御提出ください

申請先・問合せ先 漁業就業・定着化のための資格取得 検索

神奈川県 環境農政局 農水産部
水産課 水産企画グループ
☎045-210-4542

「資格取得支援事業パンフレット」

② 腰越漁協「みなとまつり」について

●日時 7月27日（木曜日）荒天中止 ●場所 腰越漁港

7月27日、腰越漁港で「みなとまつり」が、腰越漁協及び同漁協みなとまつり実行委員会の主催で開催されます。定置網見学会（6:30～、要事前予約）や鮮魚直売（9:30～）、稚魚放流や漁船に乗っての腰越・鎌倉クルーズ（先着順、制限あり）等、海と魚を満喫できるイベントが盛り沢山です。

詳細は、こちらのブログで7月上旬頃にご案内いたしますので、ぜひご来場下さい。

JF腰越漁協ブログ <https://blog.goo.ne.jp/koshigoegyokyou>

③ 茅ヶ崎市漁協のイベント「ちがさき^{シーサイド}SeaSideマルシェ」について

●日時 7月1日（土曜日）10:00～ 販売開始 ●場所 茅ヶ崎漁港駐車場（多目的広場）

先月の「浜の話題」でお知らせしました6月3日の第1回のイベントが台風接近で中止となったため、第2回のイベントを開催します。漁師のキッチンカーの出店、鮮魚販売等があります。

詳しくは、茅ヶ崎市漁協のウェブサイトをご覧ください。

<https://jf-chigasaki.wixsite.com/home/%E3%82%A4%E3%83%99%E3%83%B3%E3%83%88>

④「東京湾溶存酸素情報」について

当センターでは、東京湾で貧酸素水塊の発生が見られる5月から11月にかけて、漁業調査指導船「江の島丸」や「ほうじょう」での観測結果をもとに、「東京湾溶存酸素情報」を発行しています。今年度も5月24日から発行を始めました。操業の際の参考としていただければ幸いです。

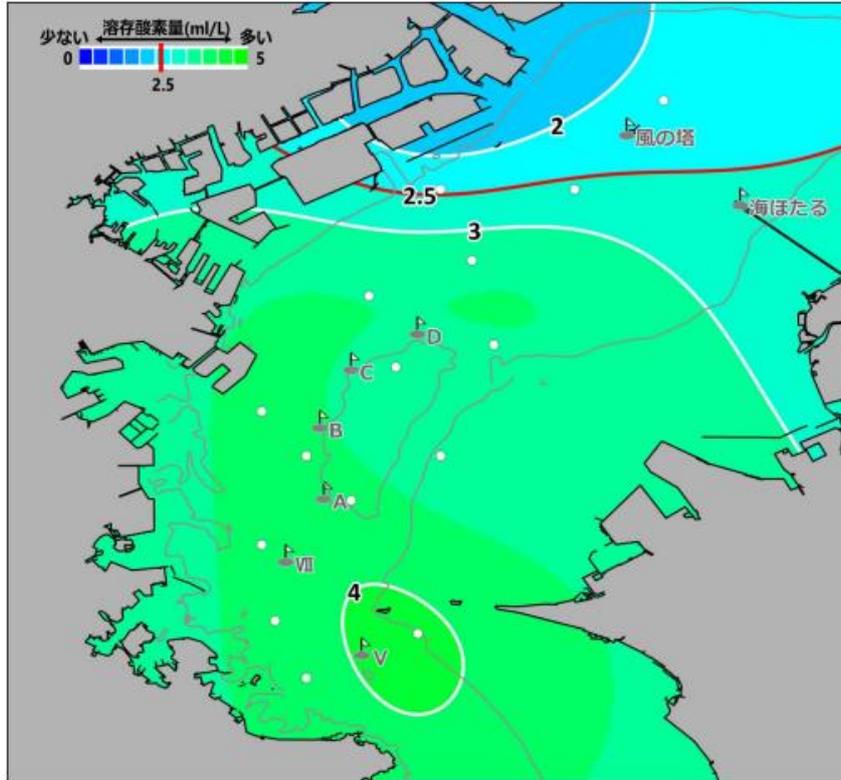
「東京湾溶存酸素情報」の最新号及びバックナンバーは、次のHPで御覧いただけます。

東京湾溶存酸素情報

2023/06/14

漁業調査指導船ほうじょうにより調査を実施しました。

- 東扇島及び風の塔海域では 10m 以深が貧酸素水塊 ($\leq 2.5\text{ml/L}$) となっています。 ※ $2.5\text{ml/L} = 3.6\text{mg/L}$



底層の溶存酸素推定分布図 (ml/L)

赤い線は貧酸素水塊の境界を、白い点は今回の調査の観測点を表しています。

※上記の分布図は調査による観測値から底層の溶存酸素量を推定したものです。

発行：神奈川県水産技術センター 企画研究部 企画指導課 ☎ 046(882)2312

※ 6月1日付の組織改編により、企画指導部・栽培推進部は企画研究部となりました。

「東京湾溶存酸素情報」の例 赤線より上部が貧酸素水塊